

Town Topics

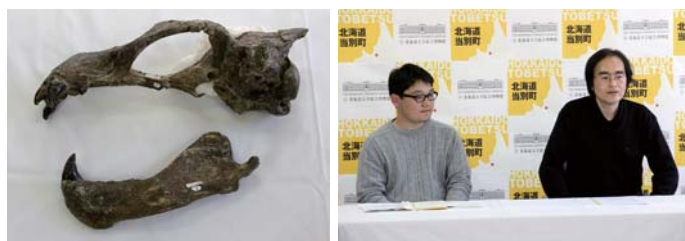
タウン トピックス

まちの話題

広報誌で紹介した写真を希望者に提供します。

広報秘書課広報広聴係 (TEL 23-3069)

当別町産セイウチ科骨格化石寄託契約締結式



作業を行う池田さん(写真上)、向井さん(写真下)



向井さんのハウスでは、グリーンとホワイトの2種類が生産されています

発見された化石は新種だった！

3月30日 当別町役場

昭和52年に当別町教育委員会が当別川上流(青山一番川流域)で発見した大型化石が含まれる岩塊について、国立化学博物館(東京都)で調査・研究が行われた結果、新種のセイウチ化石であることが判明しました。町では、この化石の保管・公開を北海道大学総合博物館に委託するため、当別町産セイウチ科骨格化石寄託契約を結びました。

調査・研究を行った国立科学博物館のこうのなおき甲能直樹研究主幹は「現生しているセイウチは長い牙を持ち、貝類を吸引しながら食しているのに対して、化石では牙が短いことが特徴で、魚を主食としていたことが考えられます。どのような進化を遂げたのかを解明するうえで、非常に貴重な化石です」と説明がありました。

丹精込めて生産しています

3月～4月 町内各所

春が訪れ、町内の生産者はそれぞれ農作業に汗を流しています。樺戸町で花卉を生産している池田きみあき公章さん。ラナンキュラスの出荷ピークを終え、次の品種の準備に余念がありません。「これから冬を迎えるまでデルフィニューム、ゆり、カーネーションなど様々な花が出荷されます。もっと町民の皆さんに当別の花を知っていただけるよう頑張りたい」と話していました。

また、春の味覚といえばアスパラガス！ 中小屋で20年以上、アスパラガスを生産している向井浩二さん。4月14日よりハウス産の出荷が始まり奥さんとの収穫作業に大忙し。「早朝4時から作業をしています。最盛期は1日2回収穫しますよ」と話していました。出荷されたアスパラガスは、「くるるの杜」「さとらんど」「はなポッケ」などで販売される予定です。